

## 令和3年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	33・1	学校名	清水南高等学校	記載者	白石 実里
------	------	-----	---------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	中高一貫教育校にふさわしい教育課程の検討、授業改善及び学習指導の充実を図る。	「授業で力がついた」と答える生徒の割合：80%	B	B	より分かりやすい目標と指標となるといい。
		週5日以上家庭学習に取り組む生徒の割合：80%	B	B	おおむね目標を達成することができているが、中等部での値が高校で低下する原因を探る必要がある。
		校内演奏会、公開レッスン等実施回数：年間計12回	A	A	講師を招聘したり、講習会を実施することではなく、生徒がどれだけ力をつけたのかを検証する必要がある。
		美術鑑賞、実技講習会等実施回数：年間計10回	A	A	
		授業公開週間実施回数：年間3回 外部講師による講演満足度：80%	B	B	満足度が上がる工夫をして欲しい。
		アクティブ・ラーニングの実施に取り組む教員の割合：80%	B	B	教員の自己評価どおりでよい。
		測定ツールで把握した学力に基づき授業改善に取り組んだ教員：80%	B	B	測定ツールは教科によって異なるはずである。授業改善で何を指すのか、目標設定の見直しが必要である。
「協調性、表現力、集中力が身に付いた」と答える生徒の割合：80%	A	A	85%の生徒が、協調性と表現力、集中力が身に付いたと答えているのは素晴らしい。		
イ	こころざしを育む進路指導の充実を図る。	講演、講義等の回数：年間合計10回	B	B	目標がわかりにくいので、中等部と高校を分けて目標を設定したほうがいい。
		「自らの進路についてより深く考えるようになった」と答える生徒の割合：80%	A	A	どのように深めていくかが重要。今後も工夫をして100%を目指して欲しい。
		[中等部]学力到達度調査 評価A以上：30%以上（3年） [高校]模試全国偏差値：1年間で+3（1・2年）、2年次の成績維持（3年）	C	C	中等部生の基礎的な学力不足は、高校入試がないことに起因していると考えられる。高校1年で学力が上がるような工夫は必要。また、学科やコースごとに目標と指標を変えてよいと考える。
ウ	効果的な生徒指導・保健指導を推進すること	「自ら進んであいさつをしている」と答える生徒の割合：80%	C	B	マスクを付けていることから口数が減っているとして考えられる。挨拶は必要な活動であるので、身につけて欲しい。
		教員参加による交通安全街頭指導の実施：年間10回	B	A	外部からの苦情が減ったということは、外部評価が上がったということなので評価する。

様式第5号

	とで、規範意識と自己肯定感を高め、心身ともに健康な生徒を育成する。	「信頼できる先生がいる」と答える生徒の割合：70%	C	C	目標を単年度の値ではなく、昨年度との値の変化を目標とすることを提案する。
		「自分には良いところがある」と答える生徒の割合：70%	C	C	これも単年度の値を評価するのではなく、中3から高1などの経年変化を目標とすることを提案する。
		「相談室だより」発行：年間5回 生徒向け掲示板更新：毎月1回	A	A	目標を十分達成することができている。
		「学校に相談できる人がいる」と答える生徒の割合：80%	C	C	コロナの影響だと感じる。学校で多くの人と話して、相談できる人を増やして欲しい。
		「保健だより」の発行：年間12回	A	A	目標を十分達成することができている。
エ	学校行事、部活動等の充実を図り、社会性と自立心を育成する。	部活動に一生懸命取り組む生徒の割合：80%以上	B	A	コロナの影響を受けながらも、目標を十分達成することができている。
		部活動ガイドラインの遵守および各部活での毎月の活動計画作成と、生徒・保護者への周知	B	B	コロナの影響で部活動の計画変更も仕方ないが、周知への取り組みを続けて欲しい。
		海外研修で「充実している」と答える生徒の割合：90%以上 海外交流行事実施：1回以上	A	A	コロナの影響で海外研修の実施は難しいが、学校の工夫で、目標を十分達成することができている。
		奉仕活動・社会貢献活動経験生徒：60%以上	B	B	自発的な行動を強要することは難しい。気運の醸成に努めて欲しい。
		「学校生活が充実している」と答える生徒の割合：70%	B	A	数値を上回っているなので、Aでよい。
		全校読書会の生徒充実度：70% 図書館貸出数：4000冊以上	B	B	引き続き、指導をお願いしたい。
オ	開かれた学校づくり、安心・安全の学校づくりを推進する。	土曜オープンスクール参加者数：年間1,600人 ホームページアクセス：年間500,000件	A	A	目標を十分達成することができている。
		PTAだより・学年だよりの発行：合わせて年間5回以上 学年保護者会の出席率：50%以上	A	A	保護者の出席率は仕方のないことだと考える。
		実践的防災訓練実施：年間3回 地域防災訓練参加率：中等部75%、高校45%	C	B	コロナの影響だと考える。
		講話や研修等の取組：月1回以上	A	A	目標を十分達成することができている。
カ	環境美化、事務業務の効率化、働き方改革	平常の清掃、学期初めと終わりの清掃及び全校清掃の徹底	A	A	問題なし。
		予算執行等に関する校内研修会の開催：年1回	B	B	今後も、適正な執行に努めて欲しい。

様式第5号

	を含めた業務改善を行う。	夏季休暇の取得率：100% 時間外勤務一ヶ月平均45時間以上の教職員数を前年度より減少させる	C	B	生徒はコロナの影響で少なからずの影響を受けている。教員が生徒に対応する時間が増えているのではないか。
		職員会議における報告の簡潔化と審議の効率化による勤務時間内での会議の終了	B	B	全ての会議をペーパーレスにする必要はないので、適切に活用できるとよい。